平成 29 年 10 月吉日

～作業療法士のみなさまへ～

「ADL を改善するための徒手療法研修会」開催のお知らせ

一般社団法人　国際統合リハビリテーション協会
代表理事　　森本　義朗

謹啓 先生におかれましては益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

医療費が増え続けている昨今、リハビリテーションの算定点数が下げられてきております。しかし「社会への早期復帰」「要介護者を減らす」ためにリハビリは必要です。現在、リハビリに期待されていることは**『ADL の改善』『QOL の向上』と言えます**。当協会では、この期待に応えられる療法士を増やすべく、研修会を開催しています。

患者様に幸せな人生を送ってもらうためには、ニーズに応えられる知識や技術が必要です。しかし、学んだ知識や技術を臨床で活かすことができないという悩みを持った方がたくさんおられます。そんな悩みのある方も翌日から実践していただけるようにサポートさせていただきます。

当協会で学ぶアプローチは、「筋出力改善」「ROM の改善」「異常筋緊張の改善」などを実感していただけます。そして、ADL 上でどのように活かすのかをお伝えします。受講者の方の声として**「評価と治療が繋がるようになった」「できなかった動作ができるようにった」**などの嬉しい報告を数多くお寄せいただいております。

研修会を通じて成長を実感し、より多くの療法士の方々に評価・治療が ADL に繋げられるようになっていただけたらと考えています。

このような事を踏まえて今回、研修会を開催いたします。限られた時間ですが、同僚や友人のをお誘い合わせの上、ご参加下さいますよう、よろしくお願い致します。

謹白

記

＜研修情報＞

日時：平成 29 年 12 月 10 日（日）
　　10~15 時（休憩 1 時間）
場所：エルおおさか　研修室 2
（「天満橋」駅より徒歩 5 分）
講師：岡澤頼宏
（IAIR 認定シニアインストラクター）
受講料：8,640 円（税込）
定員：50 名（先着順）

詳細はこちら

＜講義・実技内容＞

◆腹部の調整（腹部ポンピング）

体幹を賦活することで土台が安定します。脊柱可動性、座位立位、歩行や起居動作の改善、また食事動作での上肢リーチ範囲、下肢では立位での脱衣動作改善など

◆橈骨頭の調整

肘を調整することで上肢由来の筋緊張や可動域制限が改善します。

肩や前腕・手指の異常筋緊張や可動域の改善、手指の操作性向上、脊柱の可動性改善、上肢の動かしやすさ・耐久性の向上など

◆腸腰筋の筋膜リリース

骨盤・コア・身体の土台が安定・改善します。立位バランス、歩容の改善、階段昇降の改善、転倒予防、体幹機能の正常化により、起き上がりや靴下動作、入浴でのまたぎ動作の改善など

◆腓骨のリアライメント

膝周辺と調整することで下肢から体幹上肢へ筋緊張や可動域が改善します。

片脚立位、歩行時の振り出しなどの改善、排泄での下衣操作や洗顔動作などの立位バランスの改善など

訓練前に「身体を整える」ことで、その後の日常生活はもちろん、
ADL 訓練・アクティビティー、筋力・可動域訓練など臨床効果の違いは大きく変わります。

「ADL 動作を根拠なく反復している」「動作分析と治療手段が繋がらない」「治療効果が実感できない」
「どうすれば動きを改善できるのか知りたい」「結果の出せるアプローチを習得したい」
「ADL の直接訓練をする前に何かできないの？」など、日々の臨床で悩みのある方

先日開催した研修会では、全体の６割が作業療法士の方でした。
是非とも作業療法士の皆さんのご参加をお待ちしております。

日本作業療法士協会「生涯教育ポイント」対象研修会１ポイント付与

Japanese Association of Occupational Therapists 一般社団法人日本作業療法士協会

一般社団法人　国際統合リハビリテーション協会　関西支部事務局　中野充容（mitsuhiro_nakano@iairkansai.jp）

申込みはこちら